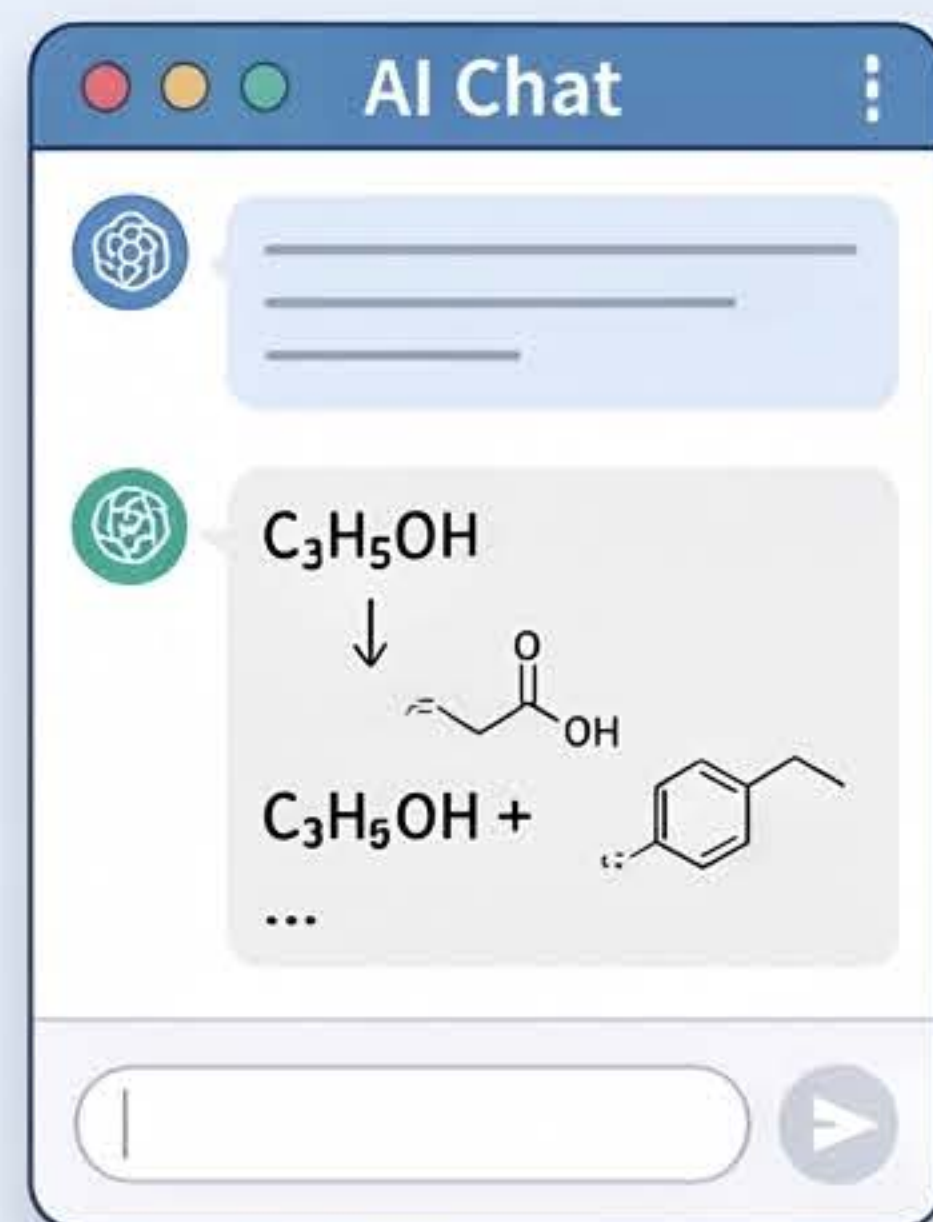


生成AI×化学構造式：2025年→2026年の進化と実務への広がり

2025

機能の初登場

単なるAIチャットから、機能の提示へ



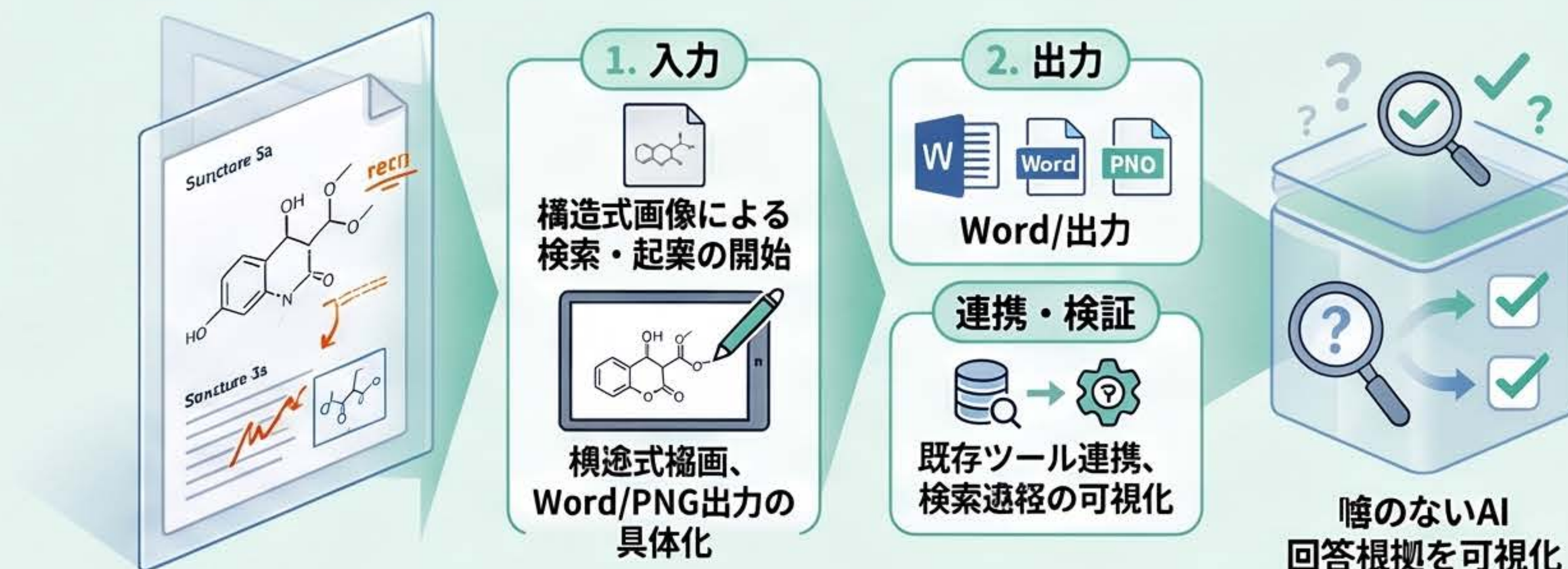
「機能の提示」

2025年から2026年へのパラダイムシフト

2026

業務工程の具体化

画像入力や外部ツール連携を含む具体的なワークフローへ



「実務ワークフローへの統合」

実務導入における評価の視点

「扱える」を4つの処理に分けて評価



立体化学や精度を個別に検証

MarkushとFTOの区別



クレーム作成支援 (Markush)
支援があっても...

MarkushとFTOの区別



他社権利範囲確認 (FTO)
自動完結するとは限らない

総作業時間による効果測定



全工程の合計時間で評価